

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 930円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

本年もよろしくお願ひ致します。

2024年・皆様のご多幸をお祈り申し上げます



ホットベリーシーホース
(伊勢シーパラダイス)

新年あけましておめでとごうございます。衆院比例南関東ブロックで3議席をとり国会に送って頂いた時、私は40歳でした。あれから10年。経済の行き詰まりを軍需産業で突破しようとする露骨な自民党政治の危険性があらわになっていきます。

どこまでもアメリカと財界の代弁者として私利私欲に走る自民党政治を変え、人々の生活をより豊かにするために、そして、次の世代に世界に誇る憲法9条を引き継ぐために力を合わせましょう。

変え、人々の生活をより豊かにするために、そして、次の世代に世界に誇る憲法9条を引き継ぐために力を合わせましょう。



衆議院比例南関東ブロック予定候補 さいとう和子

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。スマホのQRコードはこちらから。→



しらかば第1号 2015年8月号

「しらかば」第100号発行記念、おめでとごうございます。思い起こせば2015年8月、それまでの我孫子地域後援会が、常磐線を挟んで北地域と南地域に分かれて、夫々が独立した後援会となりました。

同時に、これまで発行の後援会ニュース「しらかば」は130号で終刊。北地域は新たに「しらかば北」を創刊。そして南地域は「しらかば」の名前を引き継ぎ、新生「しらかば」第1号を創刊しました。

この年の11月には市議会議員選挙が行われました。当時、日本共産党の現職は若井康さん一人でしたので、私が後援会長を辞して

暗いニュースやいやな事ばかりの一年でした。これからはもっと地球のことを考えていかなければならないと思います。新米議員ですが、永年土建業で培った経験をいかし、安心安全な街づくりに努めて行きたいと思っています。どうぞみなさま宜しくお願い致します。

前市議会議員 野村真史

「しらかば」100号記念

2024年の暮開け▼今年の壬午の「甲辰」にちなんで「竜」の話を▼竜は十二支の中で唯一想像上の動物。胴体は蛇、頭には鹿のそれに似た角が二本あり、口のごころに長いひげを生やし、背には8枚の堅い鱗をもち、4本の足にはそれぞれ5本の指を備えた巨大な爬虫類として描かれる(世界大百科事典)▼神話や民話の世界では、竜は海、川、雲など、自然の姿や力を竜に擬えて信仰の対象としてきました▼浦島太郎の竜宮城は、龍神の住む海の宮▼司馬遷「史記」には、蜃気楼の語源ともなる「蜃(瑞龍の類)の気(吐き出す息)によって楼(高い建物)が形づくられる」という記述があります▼恐ろしい姿とは裏腹に、竜は穏やかな動物とされていますが、1か所だけ弱点があり、それに触れると竜が怒って触れた人を殺すと言われています。それは喉下にある逆鱗に生えた一枚の鱗「逆鱗」▼「逆鱗に触れる」が生まれて、目上の人を怒らせてしまう意味で用いられるようになり▼正月に起きる能登半島地震。竜の神様の逆鱗に触れたとは考えにくいですが、世界で起きている紛争や「政治とカネ」の岸田政権。竜の神様の逆鱗に触れることは今すぐにやめなければ。(緑S)



オオバン



日本共産党我孫子市議会議員 船橋優

新年明けましておめでとごうございます。皆様におかれましては、よき新春をお迎えのよう存じます。

2023年は世界中での異常気象。またウクライナやパレスチナ・ガザでの戦争。自民党の裏金問題など、

力添えをいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで無事に野村さんからのバトンタッチができました。厚く御礼申し上げます。



我孫子古道巡り 2067 大字我孫子を巡る②



前回に続き「大字我孫子」の北側を巡ります。6号線を渡り、左の「字妻子原」の山林だった「電力中央研究所」のフェンス沿いの道を北西に進みます。右は、柴崎の「字天王谷」で低地です。



電研沿いの緑地

しばらく歩き、緑地を抜けると利根川の堤防が見えます。北側には「北新田」の耕地があり、利根川の奥に筑波山が見えます。



金谷排水堤樋管

戻り、変電所前の道を下り、南に向かいます。途中小道を西に入ると「つくし野川」と「天王台排水路」の合流点が見えます。戻り、次の道を西に入ると、「並木小」で昭和56年に根戸小の分校として開校

しました。現住所はつくし野7丁目で、その向かい側には調整池があります。



北新田と筑波山



並木小

この先を南に入ると「字菱田」で、駐車場の先は畑です。奥は「字並木」で、明治13年の地図を見ると、南からの台地先端の3方向が川に囲まれた地形で、「我孫子城」がここにあったと思われませんが、現在の形跡はありません。

戻り、電研に沿って南に進めると、「字城下」と呼ばれた集落があります。



城下の住宅



401系電車(ローズピンク)

「ローズピンク」が定着したものでした。国鉄内で好評だったことから交直流電車の標準色に決まった

01系の車体色は小豆色ですが、この色は先に常磐線に登場した交直流電気機関車と同じ色で、当時の国鉄直流電気機関車標準色である茶色と、交流電気機関車標準色である赤をミックスしたものでした。国鉄内で好評だったことから交直流電車の標準色に決まった

この小豆色は後に「ローズピンク」という名称が定着するのですが、登場した当時は「セクシーピンク」の異名をとりました。赤電(401系)が登場した頃、口紅の「コマージュ」から「セクシーピンク」という流行語が生まれていたので、車両設計事務所の技師がこれをまねて、小豆色を「セクシーピンク」とネーミングしたのでした。「セクシーピンク」はバラの品種にもあることから、その後「ローズピンク」に変わったのかもしれませんが、実態は不明です。

常磐線あれこれ 35

しらかば文芸欄 16 書道・寿 芳華



401系電車 (新塗装)

の車両も順次塗色変更が始まり、第一号編成がお見えした1982年8月には出発式が行われました。

交直流用3ドア赤電(401系)の車体色は小豆色ですが、この色は先に常磐線に登場した交直流電気機関車と同じ色で、当時の国鉄直流電気機関車標準色である茶色と、交流電気機関車標準色である赤をミックスしたものでした。国鉄内で好評だったことから交直流電車の標準色に決まった

した赤電でしたが、1970年代後半になると暗く感じるようになっていました。そこで常磐線では、1985年に筑波で科字万博が開催されるのを機に、クリーン色を基調に青色の帯を入れた新しい車体色に一新することになりました。在来

ちなみに中距離電車(当時は快速でなく「普通」)の外部色は当初、帯を緑色とする計画でしたが、当時上野発着の「新幹線リレー号」と同じ色になるということで(誤差防止のため)、青の帯になったというエピソードもあります。

「庭の花」

若松・高橋祥子



(緑 竹内)